

保護者の皆様

大阪府立摂津支援学校

校長 村上 哲也

令和6年度 「学校教育自己診断」実施と結果について（報告）

1. 実施時期・実施方法

【保護者】 10月下旬にさくら連絡網アンケートを配信
未登録者に用紙配付 11月8日メ切（1週間程度延長）

【児童生徒】 10月下旬に用紙で配付 11月8日メ切

【教職員】 10月下旬にさくら連絡網アンケートを配信、各学部入力チェック表回覧

児童生徒向け診断において今年度は、「学校教育自己診断」とともに「生活面や学習面の評価アンケート」を掲載し、学校で回答せず家庭での実施に変更した。学校教育自己診断については「お子様一人で回答することが難しい場合は、どこにも○をつけず空欄のままご提出ください」と記載。

2. 提出率

（過去3年の比較）※さ：さくら連絡網で回答 紙：用紙で回答 イ：イラスト版 文：文章版

	学部\年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		保護者	104.2%	92.7%（さ100・紙2/110名）
	小学部	91.7%	90.3%（さ97・紙5/113名）	80.0%（さ88・紙0/110名）
	中学部	88.5%	85.1%（さ88・紙9/114名）	75.9%（さ81・紙1/108名）
	高等部			
児童生徒	小学部	15.3%	10.0%（111 / 110名）	29.0%（132 / 110名）
	中学部	61.5%	67.3%（131・文45/113名）	54.5%（137・文23/110名）
	高等部	71.7%	57.9%（132・文34/114名）	63.0%（122・文46/108名）
教職員		98.6%	100%（141/141名）	98.5%（139/141名）

小学部児童生徒の回答率は3倍に増加している。教職員は100%に至らなかったが来年度もさくら連絡網を活用し、再送信等で回答を促していく。

3. 結果報告と考察（集計は別表参照）

①保護者向け診断票 肯定的回答（A.よくあてはまる+B.ややあてはまる）の割合について

（ ）は昨年度の数値

項目数	90%台	80%台	70%台	60%台	全項目数	全項目平均	R4	R5	R6
	5 (9)	12(6)	3(5)	3(3)	23 (23)		83.3%	84.0%	83.3%

・肯定的な回答が60%台の項目

		R4	R5	R6	経年比較
8	いじめについて子どもが困っていることがあれば、学校に気軽に相談できる。（文言変更 R4：学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。）	58.6%	72.6%	65.2%	-7.4
12	学校はパソコンやタブレットを使ってわかりやすい授業を行っている。	59.3%	64.5%	67.8%	+4.3
19	学校は、子どもが他の学校や地域の人と交流する機会を作っている。	59.6%	66.1%	67.4%	+1.8

- ・「Eわからない・判断できない」が20%を超える項目は7「環境、国際理解、暮らし」8「いじめ」、9「進路指導」12「ICT活用（1人1台端末）」、19「交流」で、7以外は昨年度より継続。これらの項目については引き続き周知が必要。
- ・9「進路指導」で教職員と横断比較できるように、また、保護者が答えやすいように文言を変更し、肯定的な回答が70%台に改善した。

9	学校は、子どもの社会的・職業的自立に向けて、子どもの発達段階や実態に応じて、適切なキャリア教育（進級、進学、就労など）を行っている。（文言変更 R5：学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。）	R4	R5	R6	経年比較
		69.4%	65.4%	71.1%	+6.9

- ・令和6年度重点目標

2	学校は、子どもの人権を大切にした教育活動を行っている。	R4	R5	R6	目標
		88.8%	90.5%	84.4%	90%以上

②児童生徒向け診断票

肯定的回答（文章版「A.よくあてはまる+B.ややあてはまる」、イラスト版「はい」）について

	R4	R5	R6
全項目平均	78.4%	85.2%	78.8%

（ ）は昨年度の数値

	90%台	80%台	70%台	60%台	50%台	全項目数
文章版	0 (2)	10 (9)	6 (5)	1 (0)	0 (1)	17 (17)
イラスト版	1 (6)	3 (4)	3 (0)	2 (0)	1 (0)	10 (10)
イ、文 合併	0 (4)	8 (9)	5 (3)	4 (0)	0 (1)	17 (17)

- ・児童生徒の「未回答・わからない」が11.0%で昨年度より5.1ポイント増加し肯定的回答は全体的に減少した。児童生徒の評価は年度によって大きく変動する傾向があることと、今年度は家庭で回答する形に変更したことで回答の傾向に変化があったと考える。数値だけでなく児童生徒の意見や保護者の回答や意見と併せて見守っていく。
- ・肯定的回答が経年比較で-10ポイント以上の項目は5項目あった。6「教育相談」、8「道德教育・人権教育」、10「いじめ」、11「進路指導」、13「児童生徒1人1台端末（ICT）」。
- ・令和6年度重点目標の10「いじめ」では昨年度は肯定回答+8.3ポイントと改善したが、今年度は減少している。「未回答・わからない」が11.5ポイント増加の21.3%となっていることも影響していると考えられる。引き続き普段の学校生活で児童生徒の変化やいじめの兆候に気づくように努めていく。

10	先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	R4	R5	R6	目標
		72.7%	81.0%	68.8%	90%以上

- ・自己肯定感については80%台を維持している。

2	先生は、一人ひとりのことを大切にし、よく理解してくれている。	R4	R5	R6
		72.2%	87.6%	80.6%
4	先生は、自分が頑張ったことを認めてくれる。	82.2%	87.2%	89.9%

③教職員向け診断票 肯定的回答（A.よくあてはまる+B.ややあてはまる）の割合について

（ ）は昨年度の数値

	90%台	80%台	70%台	60%台	全項目数	全項目平均	R4	R5	R6
項目数	15(15)	13(10)	4(7)	0(2)	32(34)				

・60%台の項目が0になり、概ね肯定的回答となった。

肯定的回答が経年比較で+10ポイント以上の項目		R4	R5	R6	経年比較
17	各分掌や各部・学年間の連携が円滑に行われている。	76.6%	71.1%	83.5%	+12.3
29	チームティーチングにおいて、サブの教員から主担任教員へフィードバックされている。(口頭によるフィードバックを含む)	68.6%	72.5%	82.7%	+10.2

17「教員連携」・・・校内研修等で学部間・教員間の交流が持てるように工夫し改善している。

29「授業力向上」・・・重点目標とした90%には届かなかったが、教員間で授業の振り返り等の情報共有の時間が確保できるように、ノー会議デーの設定を増やしたことや、研究研修部による公開授業週間の取り組みも肯定回答につながったと考える。

令和6年度重点目標		R4	R5	R6	目標
2	児童生徒の人権を十分に尊重して、カウンセリングマインドに基づく教育活動を行っている。	97.8%	96.5%	95.0%	90.0%
4	学習評価では3観点を意識し、バランスよく評価している。	89.8%	90.8%	92.1%	95.0%
13	教材提示のツールとしてパソコンやタブレットを活用している。	94.2%	93.0%	95.7%	100%
29	チームティーチングにおいて、サブの教員から主担任教員へフィードバックされている。(口頭によるフィードバックを含む)	68.6%	72.5%	82.7%	90.0%

4「学習評価」・・・目標には達していないが毎年少しずつ改善している。

13「ICT」・・・令和6年度学校経営計画に記載のとおり「プランナー（主担者）である教員」に限定すると100%で達成している。

④各診断票の横断比較について（別紙資料6参照）

特に認識の差が大きいものについて

・「いじめ」について教職員は「いじめ対応の体制が整っている」と肯定的回答率が90.6%と高い一方、保護者は「学校に気軽に相談できる」と答えた割合が65.2%と低く、28.5%が「わからない」と回答。いじめを未然に防止するため、保護者には気になることがあれば連絡帳などを通して気軽に相談していただくよう周知する。

・「ICT」について教職員の「教材提示ツール活用」に対する肯定的回答率は95.7%と高いのに対し、保護者が「パソコンやタブレットを使った授業がわかりやすい」と答えた割合は67.8%。28.5%が「わからない」と回答。ICT活用の具体的事例や効果を保護者に伝える必要がある。

4. 意見についての回答

・校区についての要望（茨木市在住児童生徒の高等部進学）は毎年PTAの対府要望に載せて府に伝えており、今年度も要望の1つとして挙げている。

・大谷翔平寄贈のグローブは小中高で順番に使って活用している。

・参観時に車で来校の場合、近くの駐車場が混みあうことがある件について、毎年1学期に参観週間（終日、給食を含む）を設け、参観できる日を多くしている。また、事前に学校へ連絡をいただければ、設定された参観日以外でも参観できるのでご希望の保護者をご相談いただきたい。

・学習面では、学校と家庭の連携が大切だと考えている。家庭学習が必要な場合、学校での学習内容を伝えることができる。宿題は、学校が授業の中で必要だと判断した場合に出すことがあるが、保護者の希望に基づく場合には家庭での準備等をお願いしているのでご理解いただきたい。

・交流活動について、本校の子どもたちが地域の子供たちとつながりを持ち、互いに尊重し合いながら生活する態度を育むことを目的に、学校間交流や居住地校交流の機会を設けている。

・引き渡し訓練について、毎年色々な形態での実施を検討している。訓練にはぜひ参加していただき、非

常時に対応できるようにご協力いただきたい。

・不登校の生徒の支援について、担任を通じて各学部の支援コーディネーターと連携しながら対応している。学校には精神科相談の機会があるので、必要な場合はご活用いただきたい。

その他、学校・学部運営、教員の対応などについて、ご意見、ご指摘、ご提案等多数いただいた。教職員全体で共有し、よりよい学校づくりに生かしていく。

昨年度いただいたご意見より、学校祭にて卒業生の進学先の施設にパンなどの販売に参加していただき好評だった。また、参観掲示に主催者の名前を記載するように変更した。

5. 今後の課題と次年度に向けて

① 情報発信、教職員の働き方改革

ICTの活用や交流、進路指導等で教職員と保護者の意識の相違がある項目や、「わからない」のご意見の多い項目について、保護者に伝える方法を検討していく。また、さくら連絡網の活用を継続し、教職員の業務の軽減と、保護者への発信とを両立したい。

② 教員連携

校内研修等において学部間・教員間の交流が持てるように継続して工夫していく。また、教員の学部間人事交流を通して、他学部の取り組みの理解と教員間の連携を深めたい。

③ 学校運営

教員の意見は行事等のアンケートや年度末反省、管理職による面談により伝えることができる。また、提言シートの活用で、教員の意見が学校運営に反映される仕組みは整っている。様々な仕組みを積極的に活用し、学校運営に教職員の意見を反映していくことで各教職員のモチベーションにつなげたい。

6. 学校運営協議会より

- 児童生徒の診断票を家庭で実施したことについて、理由と今後もこの形での実施になるか。
- 自由記述では、不登校について等こういう場でしか言えない人もいるのではないかと。保護者や子どもたちの声にどう対応していくか。相談できる場所のアナウンスがあるとよい。
- 他校では Google で学校教育自己診断アンケートを実施すると急激に保護者の回答率が下がった。紙での実施も可能にするなどして対応している。摂津支援学校の保護者の回答率は高いが、教職員の提出が100%でないのは問題。他校の教職員の提出率はどこも100%。

7. 来年度の実施に向けて

- 実施方法について、保護者と教職員はさくら連絡網を活用し、児童生徒の診断票は紙を利用し引き続き家庭で実施する。
- 教職員の提出率が100%になるように実施方法を検討する。